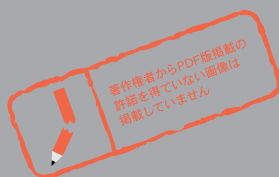


CoDen Presents

インターネットライフスタイル・アワード
グランプリ作品、優秀作品発表!



最新

インターネット技術が もたらす ライフスタイル革命

© Paul Eekhoff-Materfile Japan/IPJNET.com

第5回

「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」グランプリ作品決定!

インターネット技術を使ってライフスタイルに革命を起こすアイデアを募集し、優れたアイデアにはグランプリとして50万円を進呈。さらにそのアイデアを実際のビジネスにつなげていこうというコンテスト「CoDen presents/インターネットライフスタイル・アワード」の募集が締め切られた。審査委員会には“これぞ”というアイデアがたくさん寄せられ、厳しい審査のすえ、ついにグランプリ作品が決定。今回は受賞者へのインタビューもふまえ、どのようにしてグランプリが決定したのか、審査会の様子をレポートする。

インターネット生活研究所

この連載は、インターネットによって生活に新たな風を吹き込むことを目的としたシンクタンク「インターネット生活研究所」によって作られています。このシンクタンクの研究者は、インターネットを生活に活かしている一般の方を中心に構成され、誰でも参加可能。詳しい活動内容は [URL http://internet.impress.co.jp/iil](http://internet.impress.co.jp/iil)にて報告しています。

満場一致でグランプリ決定！ 優秀賞には将来性あふれる4つのアイデアが入賞

ついに決定した「CoDen Presents/インターネットライフスタイル・アワード」グランプリ作品。ここでは誌面の都合上審査の様態をすべて伝えることはできない。そこで、最後までグランプリ候補に残った6作品に審査員がどのような評価を与えたかをレポートする。それぞれの作品の概要は下の表を、審査員の構成は次のページを見てもらいたい。

「ネットワーク錬金術」カテゴリーとして優秀な「MY CoDen」

石田：実は今回、「ネットワーク錬金術」「ネットワークすぐやる課」「ネットワーク文化工房」の3カテゴリーを設けたのですが、「すぐやる課」にアイデアが集中していましたね。

今泉：審査の課程で、作品の提出者の指定したカテゴリーにこだわる必要はないと思います。たとえば「MY CoDen」という作品。これは、カセットテープなど古いメディアをデジタルメディアに変換するサービスをネットワークを介して提供しようと提案しています。古いものから新しい価値を

見いだそうというところが「錬金術」なのではないでしょうか。

久保田：「MY CoDen」は個人的にもほしいサービスですね。僕の手元には、LDや8ミリフィルムなども見られないメディアが山盛りあるんですよ。僕はプランナーだから、オリジナリティーに価値を置いて審査しています。ほかにまだ出ていないというのが非常に大きな価値なんですね。「MY CoDen」のようなサービスって世の中にない。

神原：ニーズがあって、いままで存在していないサービスということでは「分別生活お助けサイト」もいいアイデアですよ。

石田：これはおもしろいですね。たとえば、「燃えるゴミだか燃えないゴミだかわからない」というようなゴミに関して、ネットワークを通してその判断をしてあげる。

神原：地域によってゴミの分別方法もかなり違います。地方に行くと、分別していないところもある。このアイデアは自営業の方のものなのですが、そういった方々が現在のゴミ収集の状況を是正しようという意味で、「分別生活お助けサイト」のようなアイデアを産業界に向けて発するというこ

になるといいですね。そういう意味でも、この作品にも優秀賞をあげてもいいのではないかと思います。

アイデアは秀逸、あとはどう実現するか「ネット道案内サービス」

石田：次に「ネット道案内サービス」ですが、これは携帯電話などをネットにつなぐことで、ナビゲーションをしてくれるというアイデアです。類似のサービスは存在しているのですが「3つ目の信号を右へ」などと「テキスト」で案内してくれるところが新しいですね。

白石：これはやっぱり「人に道を聞いたら、こういふふうに答えてくれるだろうな」というデータを用意することが重要だと思います。テキストだけではなく、音声でのサービスもあるといいかもしれませんね。

石田：街の交番のようなサービスですね。
白石：そう、道を教えてくれる交番がネット上にある感じになるといいですね。

中島：私は携帯電話で地図サイトを使いますが、地図画像をダウンロードするのでパケット料金が高いんですよ。テキ

グランプリ最終選考まで残った作品

タイトル	提出者	作品概要
ベビーフォン	中村宏さん(教員)	パウリンガルの赤ちゃん版。泣いている赤ちゃんの泣き声を言葉に変換して表示。携帯電話のサービスの1つとして構築し、ネットワークを介してサーバー側で赤ちゃんの泣き声を解析して、ユーザーに知らせる仕組み。
ネット道案内サービス	喜多一三さん(パイヤー)	インターネットを使って携帯電話などに提供する道案内サービス。画像などで地図を表示するのではなく、すべてテキストでの案内になるのが特徴。日本中の会社、店、個人などが各自に自分の位置情報を登録するくらい有名なサービスにならないと、利益は見込めない。
ほっとステーション	川口尚子さん(教員)	健康に不安は感じていても、なかなか検診を受けられない人のためのサービス。各家庭にある血圧計をネットワークでつないで、異常が見られた場合メールや電話、テレビ電話などで健康相談をしたり受診の相談にのったりできるようにする。
MY CoDen	板東嘉昭さん(会社社長)	カセットテープ、MD、CD、メモリースティックなど記録メディアが多すぎる。これらを「CoDen」にバックアップ用としてアップロードすることで、著作権問題もクリアして、しかもほしいデータを「いつでもどこでも」ダウンロードできる仕組みを提案。
分別お助けサイト	山藤一雄さん(自営業者)	ゴミの分別収集が各地で行われているが、紛らわしいものをどう分別するかでストレスがたまる人もいる。そこで、ゴミはどう分別すればいいのかなどを教えてくれるサイトを構築。バーコードなどで製品を検索すると、そのどの部分が燃えないゴミなのかなどがわかる。
Schedule Layer	石原靖雄さん(会社員)	“自分を取り巻くすべてのグループのスケジュール情報の統合”を目指す「Schedule Layer」というアイデアを提示。「自分の所属する複数のグループのスケジュールを横断的にみることができる」という機能で、組織の枠を超えたコラボレーションツールを作り出す。

ストで表示してくれれば十分という世界はあるかもしれないですね。

前田：地図のデータベース作りに関しては、この人が考えたアイデアを拡大解釈すれば、画期的なものができると思いますよ。たとえば、ユーザー自身がデータベースを作るというモデル。具体的に言うと、自分の知っている道などの情報をテキストでサービスにアップしていった、それが巨大なデータベースになる。つまり、全部の地図データをデータ屋さんが起こしていくのではなく、ユーザーがコラボレーティブに集積していくという仕組みがあると、何かもっと楽しくこのサービスを作り替えることができるんじゃないかなと思います。アイデア提出者に、「これはどうやってデータベースにしようと思ったんですか」と投げかける必要があると思います。

神原：同じように「投票アシストサービス」というアイデアも、法律などいろいろなしがらみがあって実現できそうもないですけど、「どうやって実現しようとしていたんですか」とアイデア提出者の方にお聞きできて、ちゃんとした答えが帰ってきたら評価してあげたいですね。実際に、政策などのキーワードで候補者が検索できたりしたら便利だと思いますよ。

坂井：総選挙も近いし、旬なアイデアではありますね。

石田：実はこの人、「ネット道案内」のアイデアを書いてくれた人なんですよ。

神原：そうなんですか！ だとしたらアイデアマンですね。1つずつだと弱いけど、2つ合わせて、審査員特別賞をあげるというのはいかがでしょう。

石田：いいですね。こういうアイデアベースのものでも、議論の俎上に上るといって、我々の議論を活発化させてくれるという意味では評価すべきですね。

類似サービスはあるが発想の転換が
おもしろい「ベビーフォン」に教育的指導！

石田：次に「ベビーフォン」というアイデアですが、これは「パウリングル」の赤ちゃん

版ということですね。

中島：パウリングルは閉じたデバイスですが、このアイデアがネットワークと関係するのは、その解析をサーバーか何かに1回放って、そこで多量な計算をして結果を返すというところですね。

前田：赤ちゃんマーケットということで、純粹に顧客ニーズはあると思いますよ。

今泉：僕はアイデアの出し方自体がおもしろいと思います。パウリングルのABCという関係をXYZに置き換えてベビーフォンにするという形の発想は、「ある種のクリエイティブなことだよ」というふうに一般の人に広めたい。そういう意味で教育的指導としての表彰はどうでしょう(笑)。

白石：私も「ベビーフォン」には一票入れますね。これは、赤ちゃんでとりあえず始めて、今後言葉を喋れるいろんな人のコミュニケーションを助けるツールになっていくといいのではないのでしょうか。

石田：ウェブサービスのアイデアといえば「ほっとステーション」もそうですね。血圧計をネットワークにつないで、個人データをサーバーに収集し、分析して送り返してあげるという形ですが。

砂原：センサービジネスみたいなものとして、たとえばずっと身に付けているもので自分の健康管理をしていながら、倒れそうなときに何かサービスしてもらえるところまで含むと、ビジネスチャンスもあるだろうし、これからの高齢化社会の中で必要だと思われるでしょうね。

久保田：血圧以外にも、心電図なども計れてネットワークにつながっているのなら、夢のような器械ですね。もう少し具体的にアイデアが練り上げてあればいいけれど、そのあたりは「ベビーフォン」と同じで、アイデアとしていいということで、優秀賞には値するのではないのでしょうか。

満場一致！グランプリは
完成度抜群の「Schedule Layer」

石田：次に、「Schedule Layer」というアイデアなのですが、



白熱した議論を繰り広げる審査員。
審査委員長：石田晴久(東京大学名誉教授)
副審査委員長：今泉 洋(武蔵野美術大学教授)
副審査委員長：砂原秀樹 奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター長)
審査委員：久保田達也(プランナー)
審査委員：神原弥奈子(株式会社ニュース・ツー・ユー代表取締役)
審査委員：前田邦宏(株式会社ユニークアイディ 代表取締役)
審査委員：坂井 光(株式会社ウオータースタジオ 取締役)
審査委員：白石義彦(NTTコミュニケーションズ株式会社 コンシューマ&オフィス事業部IPサービス部プロデューサー)
審査委員：中島由弘(インターネットマガジン編集長)

坂井：じっくり読ませて頂きましたが、これは本当に優秀なアイデアですよ。文句の付けようがない。

砂原：僕も応募作品の中では突出していると思いますね。レベルが違います。提出者の石原さんのように、こういうアイデアを日々の仕事の中で考えている人が増えてくると、日本は元気になるのかなという感じです。アイデアとしては完成されているので、あとは実際に動かすため資金などが必要というだけだと思う。たとえば「このビジネスの資本金として」という但し書きを付けて、賞金を差し上げたいですね。

神原：私も「Schedule Layer」がいいと思います。ただ逆に言うと、インターネットライフスタイル・アワードがこのレベルでなければ応募できない賞になってしまうと、ちょっとつらいかなという気もしています。今回は、年齢層の幅が広がったので、ここまで落とし込めないものであってもいいかなと思いました。でも、「Schedule Layer」はやっぱり、完成度から言ってもグランプリですね。

石田：というわけで「Schedule Layer」は満場一致でグランプリですね。

アワードの最終結果

受賞カテゴリー	受賞者	タイトル	受賞理由
グランプリ	石原靖雄さん(会社員)	Schedule Layer	すでに完成されたアイデアで、しかも誰もがほしいと思うサービス。あとは資金を用意し、実際に提携してくれるプロバイダーやキャリアを捜すだけの段階になっている。
審査員特別賞	喜多一三さん(バイヤー)	「ネット道案内サービス」 「投票アシストサービス」	サービスの実現までにはデータベースの構築や法律の改正などさまざまなハードルがあるが、アイデア自体が面白い。それぞれの作品と言うよりも、喜多さん個人のアイデア力を評価。
優秀賞	板東嘉昭さん(会社社長)	MY CoDen	古いメディアを新しくして価値を与えようと言うアイデアが「錬金術」的。また、これまでにないサービスという点でも評価できる。
優秀賞	山藤一雄さん(自営業者)	分別お助けサイト	産業界に向けてメッセージを発するという意味で評価。いままで存在していないサービスとしての意味も大きい。
優秀賞	中村宏さん(教員)	ベビーフォン	既存のアイデアを視点を変えて新しいものに変えている点を評価。また、ビジネスとして展開したときマーケットがしっかり見えている点も。
優秀賞	川口尚子さん(教員)	ほっとステーション	高齢化社会に向けて必要なサービスとして評価。ウェブサービスのアーキテクチャーに展開できる点も高ポイント。

グランプリ受賞者インタビュー

目指すは愛知万博! Schedule Layer が生み出す真のコラボレーション

アイデアの完成度の高さに、審査会では満場一致でグランプリとなった「Schedule Layer」。ここでは、アイデアを出してくれた石原靖雄さんに、受賞の喜びとともにその内容を語ってもらった。

石原さん : このアイデアは元々5年前くらいから温めていたものなのです。そのころは、会社指定のグループウェアを使っていたのですが、それでは会社の中のメンバーとしか情報を共有できませんでした。ASP型で会社のLANという枠を超えたグループウェアも提供されていますが、それもASP間を横断することはできません。そうすると、たとえば今日知り合った取引先の方と今すぐグループウェアを立ち上げてコラボレーションしたいと思っても難しい。また、個人は1つのグループに属しているわけではありませんね。会社という公的なグループもあれば、もっとプライベートなグループもあるかもしれません。それらの情報を横断的に見たいと思っても、会社の情報とプライベートな情報をまとめて表示することはできませんでした。そんなときに、気が付いたのがメーリングリストの良さですね。

☎ : メーリングリストだと、メーラーさえあ

ればすぐに情報が共有できますね。また、1つのメーラーの中で複数のグループの情報を見ることができます。

石原さん : そうなんです。ただ、メーリングリストだとスケジュールなどを共有するまでは行かない。そこで、すべてのグループウェアの情報を横断的に取得し、共有するレイヤーのサービスが必要だと思ったのです。それがSchedule Layerなのです。

☎ : その統合された情報をパソコンなりで閲覧できるということですね。

石原さん : メーリングリストは携帯電話やPDAなどメーラーさえあればどんなデバイスでも見ることができます。Schedule Layerでもその考え方は重要で、やはりどんなデバイスでも情報が閲覧できる仕組みを考えなければいけませんね。実は、私は愛知の会社に勤めています。今後、愛知は愛知万博に向けて街全体が盛り上がっていきます。すでに、愛知万博を成功させようという草の根レベルのボランティアコミュニティが現れはじめていて、その中には携帯電話しか持っていない主婦の方もいらっしゃるでしょうから、このマルチデバイス対応という考え方は重要でしょうね。



「Schedule Layer」で見事グランプリを獲得した石原靖雄さんには記念のトロフィーと賞金50万円の目録が手渡された。

☎ : 愛知万博に向けて、Schedule Layerの考え方はますます重要になってくるわけですね。

石原さん : そうなんです。万博に参加する人たちには、さまざまなグループがあります。おそらく、2つ以上のグループに属して活動される方もいらっしゃるでしょう。そういう方々がビジネス化されたSchedule Layerを使って、うまくコラボレーションしながら万博を成功させていく、そんなふうになるとうれしいですね。

☎ : 受賞をきっかけに、ぜひその夢を実現してください。おめでとうございます。

石原さん : ありがとうございます。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp